



世界自然遺産登録をアピールする「奄美愛しや連」（円内は、感激の保連長夫妻）



おなじみの大島紬でそろえた東京奄美会女性部



家族的な雰囲気のある東京配田ヶ丘同窓会



チームワークの良さを感じさせた東京喜界会・島踊りの会

「奄美愛しや連」渋谷区長賞（準グランプリ相当）



奄美関係郷友会など4組エントリー

【東京】第26回渋谷・鹿児島おはら祭（同実行委員会主催）が28日、東京都渋谷区の道玄坂・文化通り周辺で盛大に開催された。奄美群島からは、郷友会など4組がエントリー。「奄美愛（かな）しや連」が渋谷区長賞（準グランプリ相当）の栄誉に輝くなど、`奄美の風、を心地よく吹かせていた。

口組、約2000人の踊り連が参加。メインストリートには東京奄美会女性部、東京喜界会・島踊りの会、東京配田ヶ丘同窓会、「奄美愛しや連」の4組が集結した。久しぶりの踊りへの興奮と懐かしさに、どの顔も自然と笑みがあふれていた

勇壮な太鼓を合図にスタート。「おはら節」や「渋谷音頭」の軽快なリズムに合わせて、ほとんどがマスクを外して踊りを披露していた。「奄美さん頑張ってる」など各連が、擦れ違うたびに激励する声や「とてもきれい」と大島紬のあでやかさに沿道からの声援も聞かれた。祭りのざわつきの中で結果が発表され、「奄美愛しや連」が見事に渋谷区長賞に輝いた。

保宜夫会長（連長）（81）は「世界自然遺産もPRできた。龍郷柄の法被を新調して、6年ぶりにやって来たかいたがよかった」と満足そうに話した。妻で同じ連長の禮子さん（74）も「奄美に興味を引いてもらえたら、と踊りに思いを込めた」と奮闘ぶりを振り返った。

同連は、2001年から渋谷と鹿児島の祭りに交互に参加。昨年11月には鹿児島で舞った。この日、「ハンヤ節」が流れた際は「八月踊り」で奄美をアピールしていた。

入賞こそなかったものの「3年ぶりに大島紬を多くの人に見てもらえた」（東京奄美会女性部・水野節子連長）、「チームワークの良さで奄美をPRできた」（東京喜界会・島踊りの会・宮澤富枝連長）、「奄美のアピールに、全員で踊りを楽しめた」（東京配田ヶ丘同窓会・永井珠海連長）。それぞれ古里に思いをこめ、笑顔を見せていた。一方、南九州最大の祭りが再現されたエリア近くでは、鹿児島焼酎&ミュージックフェスティバルも開催され、奄美の黒糖焼酎も出展された。

[← 前の記事](#)

[次の記事 →](#)
